

第27回「桃陰文化フォーラム」報告

さる11月17日(土)の午前10時から、第27回「桃陰文化フォーラム」--『邦楽の味わい～古典から現代へ 乙女文楽を迎えて』と題して、和楽器オーケストラ 邦楽合奏団「鼎」(KANAE)のメンバーである麻植武志先生、佐々木公子先生、宿里節子先生、そして客演として乙女文楽の演者である吉田光華先生をお迎えした演奏会が天王寺高校多目的ホールで開催されました。

当日は冷たい雨模様の日でしたが、吹奏楽部を中心とした生徒や、保護者、卒業生らなど約100名近い聴衆が集まり、最初は寒かった多目的ホールもあとには熱気でいっぱいとなりました。

最初に明治の作曲家の宮城道雄氏の名曲『春の海』が演奏されました。お正月になると日本のあちこちで流れる名曲で、新春を言祝ぐようなゆったりとした十三弦琴と十七弦琴の上に、悠揚たる尺八の音がかぶさり、心が穏やかで広々するような心地でした。



次は一転して、平成になって作曲された現代邦楽の曲『リープ(跳躍)』。琴の音色が西洋楽器のハープや弦楽器のように用いられ、リズムも早く緩急に富んだドラマティックな音楽の流れが、クライマックスで突然断ち切られるようにして終わる印象的な曲でした。

二曲演奏の後、尺八担当の麻植先生から楽器の紹介がありました。麻植先生は昨年まで天王寺高校の国語科で教鞭を執られ、現在は狭山高校でご勤務されています。

麻植先生は、落ち着いたユーモアたっぷりの口調で、琴という楽器の仕組みや、尺八がなぜ尺八というのか(一尺八寸だったから)などについて話して下さいました。

今回の合奏で低音を担当している十七弦琴は、大正時代に宮城道雄が考案したもので、西洋音楽のベースにあたり、その考案によって邦楽の幅が広がったこと、また二十弦琴や二十五弦琴、三十弦琴も作られたこと。また、もともと尺八は楽器としてではなく「吹き宗尺八」と呼ばれ僧侶がお経をよむ代わりに吹くためのものとして生まれたこと、時代劇で虚無僧が尺八を吹いているのは「読経」にあたることなどを話して下さいました。そのために尺八は本来は独奏の楽器だったものが、明治以降に邦楽の合奏の楽器の一つとして用いられるようになったそうです。

続いて三曲目は古曲「黒髪」。江戸時代の曲で、現代的だった二曲目とは一転して、ゆったりしっとりとした曲想です。途中で、十三弦琴の奏者の佐々木先生による唄も入りました。リズムやシンクペーションがなく、まるで千鳥足で歩き立ち止まり、また歩くような雰囲気、三味線をつま弾きながら小唄を唄う粋なお師匠さんが思い浮かびました。

四曲目の現代曲の『二つの田園詩』の演奏の後、当日の客演者である乙女文楽の遣い手の吉田光華先生が登場されました。吉田先生は薄い銀色の着物に袴を召し、腕に娘の頭の文楽人形を抱えていらっしゃいました。

乙女文楽とは、大正時代に、本来は三人で遣う文楽人形を、女の子の習い事として一人で遣えるようにと考案されたもので、当時はお稽古ごととして盛んだったそうです。それが、戦争などを挟んでほとんどなくなってしまっていたのを、往年の遣い手だった



吉田光子さんから直接教えを請う形で吉田光華さんが再興し、各地で上演しておられるそうです。重さ7~8キロもある人形を一人で遣うために数々の工夫がなされており、吉田先生はその工夫の一つ一つをわかりやすく示して下さい、客席からはその度「へえーっ」と感嘆の声が上がりました。そして最後に、「鼎」の合奏による古曲『思いの丈』に合わせて、吉田光華先生

が演じる娘の文楽人形の演技。愛しい人のことを思うと心は千々に乱れ、ためらいながらも思いの丈を手紙にしたためる娘の心の昂ぶりが、手に取るように感じられる、繊細な人形の動きでした。

上演後も質問が相次ぎ、一つ一つに麻植先生は丁寧に詳しく答えて下さり、興味は尽きませんでした。最後に出席した生徒からの花束贈呈と教頭からの謝辞でお開きとなりました。

普段なかなか触れる機会の少ない邦楽に触れ、心癒される時間でした。演奏して下さいました「鼎」のメンバーの皆様、乙女文楽の吉田光華先生に深くお礼を申し上げます。

また、会場を整備してくれた卓球部のみなさん、受付をして下さった PTA の文化委員の方々にもお礼を申し上げます。

【アンケート一部抜粋】

【在校生】

- ・初めて聞くもの、見るものばかりで新鮮でした。乙女文楽も初めて見て人形の頭や手が吉田先生の手動きに合わせてしなやかに動く姿に感動しました！！腕の動きにぴったりリンクした指先の動きがすごかったです。
- ・とても興味深かったです。初めての尺八やお琴や乙女文楽を見たので感動しました。また色々みてみたいです。
- ・邦楽を生で聞いたのは初めてだったので、いい経験になりました。乙女文楽というものはあることも知らなかったのだから見ることができて良かったです。
- ・私は普段、吹奏楽部でどちらかというと外国の曲を演奏することが多いので、今日のフォーラムを見て新しいジャンルの音楽と触れあうことができて勉強になりました。
- ・邦楽を見るのは初めてで、あまり知りませんでした。聞いているうちに気持ちが落ち着くようになおもいました。

- ・人形の動きが本当に一体となっていて、すごくリアルでまるで生きているかと思いました。
- ・尺八や琴や三味線など普段聞くことができない楽器を聞くことができ良かったです。乙女文楽は人形が勝手に動いているみたいで感動しました。こういった日本の歴史ある文化は残していかないといけないと思いました。
- ・演奏が始まると、ホールの空気が一気に変化した感じがしました。乙女文楽との融合も素晴らしかったです。良い経験になりました。
- ・初めて、尺八やお琴の演奏を聴きました。すごく日本らしい音で良かったです。
- ・邦楽、乙女文楽、共に初めてでしたが、美しい音色、表情、踊りに感銘を受けました。特に自分は十七弦の低音が印象に残りました。
- ・いつも聴いてる曲とは一味違った、とても純粋な音楽を聞けてすごく新鮮でした
- ・乙女文楽を初めて見て一人であれほどいろいろな動きをするのは大変だろうと感じました。
- ・若い世代にとってこのような機会に巡り会うことがないので、今日の体験は貴重な体験となりました。
- ・曲ごとにいろいろな響きが楽しめて良かったです。邦楽の味わいの深い音が魅力的でした。
- ・「春の海」ととても美しく、落ち着く音楽だった。「リープ」は日本の楽器でもこんな雰囲気を出せるんだと知り、驚いた。少し寂しげなのが良かった。十七弦は琴みたいだがとても奥行きのある音だった。琴がとてもきれいで弾いてみたい。尺八は難しそうだった。
- ・生でお琴と十七弦と尺八の演奏が聞けて良かったです。お人形がとてもかわいかったです。
- ・「和」という感じの音ですごく良かったです。人形も本当に生きて悩んでいるようでした。
- ・とても美しい音色で、心に響きました。和の雰囲気がとても良く伝わり、お琴や十七弦や尺八について初めて詳しく知って、邦楽や乙女文楽のことを学ぶことができ良かったです。今日、皆さんの素晴らしい演奏や客演を聞いたり見たりしてとてもいい機会だと思いました。
- ・乙女文楽という珍しいものを見れてとても良かったです。また、お琴や十七弦、尺八などの美しい音を聞けて感動しました。
- ・初めて尺八やお琴の演奏を聴いて思っていたより色んな曲があるんだと思いました。
- ・邦楽にも現代音楽があると聞いて親しみをもちました。最後の曲がとてもきれいだと思います。

【卒業生】

- ・麻植先生の授業とは違った一面が見れて良かったです。かっこよかったです。
- ・麻植先生の袴、お似合いです。人形の顔の動き、傾きがとても細かく生きているように見えました。
- ・麻植先生がかっこよかったです。乙女文楽は初めて知りました。素晴らしい文化を知れて嬉しいです。

- ・麻植先生の演奏がすごく良かったです。邦楽も文楽もなかなか見る機会がないので良かったです。

【保護者】

- ・尺八の音色を生で聴きたくて来ました。もっと勇壮なものだと思っていたので繊細さに驚きました。
- ・乙女文楽、久しぶりです。以前何度も拝見しましたが、楽しく拝見させていただきました。邦楽の味わいも素晴らしい演奏でした。ありがとうございました。
- ・古典から現代まで様々な邦楽を聴かせて頂きありがとうございました。中でも2曲目の「リープ」は邦楽のイメージをぐんと広げてくれる素敵な曲でした。また機会があれば見せていただきたいと思います。
- ・邦楽と共演する乙女文楽という芸術を、初めて体験させていただくことができ感動致しました。邦楽の音色はやはり日本人の心ですね。すばらしかったです。人形の動きとびったりでした。今話題になっている（財源カット等）文楽ですが、これを機会に観劇にもいつてみたいと思いました。どうか皆様、日本の伝統芸術をこれからも広める活動を続けていただけますようお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。
- ・邦楽は聴いていて大変落ち着きました。春の海は正月気分になりました。文楽のびったりマッチしていて鑑賞できて良かったです。
- ・現代的な曲がとても良かったです。
- ・生の音に触れることができたのでいい体験になりました。
- ・とても楽しいひと時を過ごすことができました。
- ・乙女文楽、初めてみました。見とれてしまいました。貴重な体験ありがとうございました。
- ・邦楽・乙女文楽に触れる機会を作ってくださいありがとうございました。